

重複障害がある人とかかわる

自分にできる重複障害の人とかかわりを一般人に教えます。

これまでたくさんの動画を通して重複障害の多様性を勉強してきました。子供から大人、重度者から軽度者、障害の組み合わせなど様々でした。もちろん障害種ごとにアプローチの仕方や必要な支援は異なってくることは分かりましたが、一般の人は分かりません。そこで、今までの授業で全員に当てはまったかかわり方について考えました。全部で2つあります。一つ目は、「人として基本的な信頼関係を結ぼうとする姿勢」です。どんな障害がある人も一人の人間です。頭ではわかっていることだと思いますが、難しいです。自分より年上なのに子供っぽかったり、見たことのない動きなどびっくりすることがあるからです。その人や状況に応じて接することは大切なことですが、信頼関係を結ぼうとする姿勢はどんな時でも大切です。二つ目は「得意なこと・やりたいことは何か知ろうとすること」です。障害があるとできないこと、支援が必要なことに目が向きがちですが、得意なことややりたいことはあるはずです。それに気づき、関わりを持とうとすることがどんな“人”と接する時でも共通する接し方だと思います。

